

6月8日は、MERS が中国大陸に上陸して 14 日目となる日だ。これは、MERS ウィルスの最長潜伏期間に相当する。韓国人金鵬国、これが中国で最初に MERS 患者と確診された男で、広東省の惠州中心医院の陰圧室病棟に入れられているが、いつ彼がそこから出られるのかは、まだ分からない。

### プロローグ

蘇燦（仮名）は夫の会社と韓国の同僚を訴えたいと語る。

長年深圳で生活しているこの若い女性は、彼らが彼女とご主人を中国大陸初の MERS 騒動に巻き込まれたと信じている。

この MERS ウィルスは、大陸に持ち込まれた SARS ウィルスと比較される。12 年前の春、後者は中国大陸で大流行し、患者 5,327 人と、死者 348 人をだした。

6月8日は、MERS が中国大陸に上陸して 14 日目となる日だ。これは、MERS ウィルスの最長潜伏期間に相当する。韓国人金鵬国、これが中国で最初に MERS 患者と確診された男で、広東省の惠州中心医院の陰圧室病棟に入れられているが、いつ彼がそこから出られるのかは、まだ分からない。

MERS は、中東呼吸器症候群の略語（宮本注：スペルアウトすると **Middle East respiratory syndrome**）だ。中国人の多くは、これが金鵬国により持ち込まれたものだと思っている。金豊国は、44 歳の韓国人で、父と妹（46 歳という年齢から「姉」の間違いです）が韓国内で既に MERS と確診されていた後、発熱したまま飛行機に乗り香港に入り、バスにのり深圳経由で惠州に入境していた。

### 発熱者との濃厚接触者

「惠州出張の通知を受け、ドキッとした」6月1日、北京から惠州へのフライトの際に、ここで仕事をする一名の旅客が「きっと大丈夫、そう簡単には感染しはしないだろう」と自らを慰めていた。着陸して間もなく、晴れ渡っていた惠州は突然雷雨に見舞われた。奇しくもこの 6 日前、惠州は一陣の雷雨に見舞われ、招かれざる客を迎え入れていた。

5月26日 12 時 50 分、金鵬国は飛行機で香港に到着、午後 3 時に空港バスで深圳沙頭角から入境して惠州に達した。この時から、蘇燦がある種『思いもせぬ』ところから MERS 発生に関係を生じることとなった。金鵬国は、彼女の夫李さんの上司だ。当日、李さんは深圳から一時間半かけてくるまで惠州に入り、金鵬国と合流した。彼らはいずれも韓国の会社の社員で、この会社とは **LG のサプライヤー**（LG そのものの社員ではなかったようですが、LG の「そんな社員はいない」とした声明文にはサプライヤーの社員だったことは伏せられていた）、翌日 LG の技術交流会に参加せねばならなかった。

「26 日夜、彼らはホテルの同室に宿泊し、一緒に食事をとった。27 日に会議終了後、別のホテルに移り、夜、主人は帰宅した」。蘇燦は、「濃厚接触者」の中でも夫ほど濃厚接触をしたものはいないと語る。5月27日夜 10 時、WHO が『MERS 濃厚接触者が中国に入国していた』という情報を発信。4 時間後、金鵬国は惠州市中心人民病院で隔離治療を受けることに。

この夜、李さんは、テラスで電話をかけてきた。『彼は、会った時から発熱していて、主人が彼にいったいどうしたのかと尋ねたところ、普通の風邪で熱があるだけだと答えたので、主人が彼のために風邪薬を買ってあげたのです』。蘇燦は電話で『新聞極客』にこのように答えた。蘇燦は、「その後、電話が通じなくなり、主人がホテルに、部屋にいつ金さんの状況を見てやってほしいと要請しました」その半時間後、ホテルから電話があり、金さんは衛生部門により連れて行かれたという電話があったと回顧する。李さんも即刻隔離されることになった。

### ナースはグローブを四枚重ねで装着

金鵬国は、惠州市中心人民病院の重症 ICU に隔離されたがこれは普通の ICU 病棟とは異なるものだ。病室内の気圧は膝蓋より低く保たれ、外面の空気は病室に流入するが、内部の空気は外部には流出しない。

病室内の汚染された空気は専門のチャンネルを経由して処理された後に再放出されるようになっている。

「ドアを開けても空気は外には漏れない」 当該医院で管理層に接近した職員馮明（仮名）さんは、「これが陰圧病室だ」と言う。

この種の病室は、WHO が SARS 患者を治療する際に特に強調した重要な条件なのだ。SARS と鳥インフルエンザの後、中国の発達した地区にある大病院が争って陰圧病室を設置していた。慶州市中心医院の陰圧室は、昨年投入され使用が始まったものだ。

卓斯は最初に金鵬国から採血を行なったナースだ。卓斯は『90 後（1990 年以後に生まれた人）』で、昨年 7 月に卒業したばかりだ。『彼女は医療グローブを 4 枚重ねにして装着したが、通常の採血では 1 枚のみで装着するものだ。頭には目の部分に透明ガラスがある防護カバーをつけているが、その他全ては密閉されている。彼女が息をするとガラスの内側に蒸気が発生する。外面は空調、内側は熱気、呼吸が早くなればなる程発生する蒸気も多くなる。採血完了後のガラスは殆ど模糊としていて、前がよく見えず、どこから退室できるのかわからなかった』

この病院の職員は匿名で、陰圧室の看護師のリスクは大きく、患者に近づきケアをするので、患者の唾液や分泌物などに接触することになり、「卓斯は、すごく緊張していて、泣き出しそうだった」と語った。

感染科での看護経験が豊富な李春海さんも同様に『怖い』と感じる。彼女は MERS 患者の第 1 班のナースだ。彼女は、陰圧室への入り口の緩衝室に入った瞬間に『鳥肌が立った』と回顧する。

この日から、彼女はまだ自宅には戻っていない。家には 5 歳半の娘さんがいる。

『これが全国初の患者というものです。』馮明さんは SARS がまた来襲しないとは誰にも言えないという。

## 隔離された韓国人患者

韓国の MERS はまだ拡散を続けている。6 月 8 日時点で、韓国では MERS 確診患者数が 87 人に達し、隔離者 2361 人、死亡者 6 人が出ている。異国の ICU で金鵬国は 12 日目を迎えている。6 月 5 日の政府公表では、彼の『病状がまだ重く、情緒不安定が激しい、専門家グループが速やかに治療対策を調整している。』金鵬国の『情緒不安定』は初めて現れたわけではない。

公開された報道によれば、金鵬国は 1971 年生まれ、父は韓国 MERS 患者第 3 号、妹（上述の通り『姉』の誤記）は第 4 号だ。彼は 5 月 23 日～24 日、病院で父親を見舞っており、MERS 患者の濃厚接触者とされていた。中国に出張した時点で既に体調不良と発熱をしていたため、非難を浴びることになった。中国のネットユーザーの不満以外にも、韓国内のネットユーザーからも『国民の恥だ』と非難された。鐘南山医師もまた、『彼は絶対に韓国を離れるべきではなかった』とメディアに意見を公開した。

この男の妻は、韓国メディアのインタビューに対して「主人はいつも忙しく、出張しないわけにはいかなかった」と言い訳した。隔離病室の金鵬国は、ネットを通じてこの情報を見ることができた。彼は韓国メディアの電話によるインタビューを受け、「中華料理を食べる習慣がなく、もう何日間も餓死しそうだ。」と答えた。

ネット上の情報を集めてみると韓国人 MERS 患者のイメージは；40 歳を超えているのに粗暴で自分勝手な奴ということになるが、少なくとも卓斯のイメージとは異なるようだ。

『彼が情緒不安定な時に、額をぬぐい励まして彼と濃厚接触しました。』卓斯は「新聞極客」に対して韓国語の「頑張れ」という表現を使った。卓斯が最初に彼と会った際に、金は目を開けてベッドに横たわっていた。視点が定まらず、表情には憤怒の様子が現れ、卓斯を睨みつけていた。卓斯が「親故（『朋友』を表す韓国語）、私と友達になりましょう、私は卓斯です」と片言の韓国語で呼びかけたところ、患者の表情に変化が現れ、数秒の後、「金鵬国だ」と答えた。卓斯は、この韓国人は『礼儀正しく、ある時には謝罪をして、解熱剤を飲んで多くの汗をかき、彼のシーツを取り換えるのを手伝った際には有難うと言っていました』と語る。

翻訳ソフトに頼りながら、金鵬国は自分の病状が死とは程遠いことを知った。「私たちはタッチスクリーン上に『怖がることはない、一緒に病気に勝ちましょう』と書きました」と卓斯は語った。

その後、病院は韓国語の通訳を手配し、「韓国料理人を要請し、クッパやキムチ等の韓国飯が食べられるようにした。中華料理を食べる習慣がないのだから。美味しくないと料理を食べると抵抗力もできないし、治療にも影響する」とした。

## 接触者の周囲からは怖がられて

金鵬国の隣にはもう一名の濃厚接触者が隔離されている。

蘇燦は、この人を知っているという。『ホテルの人です。主人との仕事で知っています。彼が隔離されて

後、電話をして、ある時は韓国人の通訳をしているとのことで、どうしようもない。』と語る。

『あるメディアは私が彼の通訳だと報じているが、そうではありません。彼らは同僚なだけ！』たとえ些細なことであっても、蘇燦もまたそこから離れられず、もう少し正確に説明したいという。彼女も影響を受けているのだ。

『大変怒っていますし、悩んでいます！今、私は正常人の生活ができません。』

蘇燦と夫の李さんは朝鮮族で、深圳に戻ってから、家で一晚過ごした。5月28日早朝、もともと二人は別の場所に引っ越しをする予定だった。李さんは、翌日昼に隔離のために連れ去られた。

「その当時、主人には体調不良は見られず、今までのところ発症の形跡はなく、何度検査しても陰性なんです。」蘇燦は言う、彼女自体には隔離要求がされていないが、『医学観察』として、毎日コミュニティの健康センターに二度体温測定結果を報告している。

「敢えて自分のリスクについて聞いてみたところ、衛生部門の職員は、たとえ私の主人が感染していたとしても、私には彼の発症時に接触が無いので関係ないと言ってくれました。」

蘇燦は、「最も怖いのは MERS ではなく、周囲の人の彼女への恐怖」だという。

たとえウィルスの潜伏期を十分過ぎた頃でも、人々の彼女への恐怖はウィルスよりも強い。

5月28日から、彼女は二度だけしか外出ができていない。

政府側の発表の中で、彼らの引っ越し先や引越日程も含め、深圳の濃厚接触者の搜索の詳細が発表され、「周囲の人たちがすぐに私のことを知ってしまいました。」「私は一度会社に行きました。同僚が私を見るなり、どうして来たのか？と口々に言い、その眼には「あんたは来ちゃいけないだよ！」という雰囲気がありました。」「私が食材を買いに出ると、周りの人が私を見るなり、私を避けるのです。私を見る目は、まるで私が犯罪者で、私が隔離先から抜け出してきたかのようなようでした。』

「私は、実際隔離されているわけではないのよ！」と蘇燦はいう。

最新の政府情報では、MERS の隔離期間は 14 日、一部の人の隔離期限は 6 月 8 日で、最終隔離者でも 11 日には隔離期間が過ぎるとある。

広東省疾病管理センター伝染病予防管理所の何劍峰所長は、メディアに対して、リスクは確実に最低になっているが、絶対ということはない、「患者とひょっこり会ってしまっても、厳格に言えば濃厚接触とはならないが、万一ということもある」と話した。

蘇燦は、周囲の人からの恐怖の視線に耐えている。「私は、弁護士を通じて主人の会社の同僚と会社に対し、経済的損失と精神的苦痛の賠償責任を問う準備をしています。」 (新聞極客 劉陽 報道)

<http://news.sina.com.cn/c/zg/jpm/2015-06-08/21181119.html>

..... 以下は中国語原文 .....

## 新浪特稿-MERS 入境者金鹏国

新浪新闻中心 news.sina.com.cn 2015-06-08 21:18

6月8日，是MERS 登陆中国大陆的第14天，正好是这个病毒的最长潜伏期。韩国人金鹏国(音)，这个中国第一例确诊的MERS患者，躺在广东惠州中心医院的负压病房里，他也不知道什么时候可以离开。

### 开篇语

苏灿(化名)想起诉她老公的公司和韩国同事。这位常年生活在深圳的年轻女士认为，是他们让她和老公被迫卷入中国大陆第一例MERS风波。这是一种被拿来和SARS(非典)比较的病毒。12年前的春季，后者曾在中国大陆爆发，确诊病例5327人，致死348人。

6月8日，是MERS 登陆中国大陆的第14天，正好是这个病毒的最长潜伏期。韩国人金鹏国(音)，中国第一例确诊的MERS患者，躺在广东惠州中心医院的负压病房里，他不知道自己何时可以离开。MERS是中东呼吸综合征的缩写。中国公众对它的了解，很大程度上来自金鹏国。这位44岁的韩国人，当父亲和妹妹在韩国已确诊MERS后，发着烧坐上飞机抵达香港，转乘大巴至深圳口岸，入境惠州。

### 发着烧的密切接触者

“接到去惠州出差的通知，那一秒，心里‘咯噔’一下。”6月1日，北京飞往惠州的航班上，一名到此间谈生意的旅客安慰自己：“应该没事吧，不会那么巧让我赶上。”飞机降落后不久，原本艳阳高照的惠州，忽然下起了雷阵雨。巧合的是，6天前，惠州也下了一场雷阵雨，还迎来了一位不速之客。5月26日12时50分，金鹏国乘飞机抵达香港，下午3点乘坐机场大巴从深圳沙头角口岸入境抵达惠州。从这时起，苏灿以一种“意想不到”的方式，与MERS

发生了联系。

金鹏国是她丈夫李先生的上司。当日，李先生从深圳驱车一个半小时来到惠州，和金鹏国汇合。他们都是一家韩国公司的员工，这家公司是 LG 的供货商，次日要参加 LG 的技术交流会。“26日晚上，他们在酒店住同一个房间，一起吃过几顿饭。27日开完会，换到另一个酒店。晚上我老公就回来了。”苏灿说，要说“密切接触者”，没有人比她老公“更密切”。

5月27日晚10时，世界卫生组织发布“MERS密切接触者入境中国”的消息。4个小时后，金鹏国被转送至惠州市中心人民医院进行隔离治疗。这一夜，李先生一直在阳台打电话。“见面时，他一直发烧，我老公问他怎么回事，他说是普通的感冒发烧，我老公还去给他买了感冒药。”苏灿在电话中告诉《新闻极客》。苏灿回忆说：“后来电话一直没人接，我老公就给酒店打电话，请酒店去房间看一下金先生的情况。”半个小时后，酒店回电话，金先生被卫生部门带走了。

随即，李先生被隔离。

## 戴四层手套的护士

金鹏国被隔离在惠州市中心人民医院的重症 ICU 病房。这不是一间普通的 ICU 病房。病房里的气压低于病房外，外面的空气可以流入病房，里面的空气无法流出。病房内被污染的空气经由专门通道，进行处理后，再排放出去。“打开门(空气)都出不去。”该医院一位接近管理层的员工冯明(化名)说，这叫负压病房。这种病房，是世界卫生组织规定抢救非典病人时特别强调的一个重要条件。非典和禽流感后，中国发达地区的一些大医院纷纷建有负压病房。惠州市中心医院的负压病房，去年才投入使用。护士卓斯第一次给金鹏国抽血。

卓斯是90后，去年7月刚毕业。“她戴了四层手套，一般抽血都是戴一层。头上还戴了一个护罩，只有眼睛部位是透明的玻璃，其他全部都是封闭的。她一呼吸，里面就会有蒸汽。外面是空调，里面是热气，呼吸越快，蒸汽越多。抽完血以后，玻璃全模糊了，看不清，都不知道从哪里出去。”

该医院一位不愿具名的工作人员说，负压病房护士的危险很大，要寸步不离地照顾患者，经常会接触到患者的唾液、分泌物等物，“卓斯当时心里很紧张，都想哭。”传染科护理经验丰富的李春梅同样“害怕”。她是第一班护理 MERS 病人的护士。她回忆说，走过缓冲间，站在隔离门前的一刹那，“头皮一阵发麻。”从这天开始，她再没回过家。家里有她5岁半的女儿。“这毕竟是全国首例。”冯明说，非典会不会重来，谁都说得不准。

## 被隔离的韩国病人

韩国的 MERS 还在扩散。

截止当地时间6月8日，韩国 MERS 确诊病例总数已达87人，隔离2361人，已有6人死亡。在异乡的 ICU 里，金鹏国躺了12天。6月5日官方通报中，他“病情仍重，情绪波动明显，专家组已及时调整治疗方案。”金鹏国“情绪波动”不是第一次出现。根据公开报道，金鹏国1971年出生，他的父亲是韩国第三例 MERS 病例，妹妹是第四例。他曾于5月23至24日在医院陪护父亲，属 MERS 病例的密切接触者。来中国出差时，他已感到不适，且发烧。这使他遭到声讨。除了中国网友的不愤，也有韩国网友称其做法是“耻辱”。钟南山也曾公开告诉媒体，“他是不应该离开韩国的。”他的妻子接受韩国媒体采访时为丈夫辩解，说他平时工作特别忙，不得不出差。在隔离病房中的金鹏国，可以通过网络看到这些消息。他接受了韩国媒体的电话采访。他对韩国记者说，吃不惯中餐，已经饿了几天了。网络碎片拼凑出一个韩国 MERS 患者的形象：40多岁、暴躁、自私。

但，这至少不是卓斯眼中的形象。“他情绪不平稳时，我会做一些相对亲密的接触，摸摸他的额头，给他加油。”卓斯面对《新闻极客》，用韩语说了一遍“加油”。卓斯第一次与他见面时，他正睁着眼躺在床上。双目无神、表情有点抑郁又有点愤怒，两眼直直地盯着卓斯。“亲故(音，韩语‘朋友’的意思)”，卓斯叫了一声，用蹩脚的韩语接着说：“我们做朋友吧，我叫卓斯。”病人的表情有了一些变化，愣了几秒钟，回应了一句：“我叫金鹏国(音)。”卓斯说，这个韩国人“很讲礼貌。”“有时发了脾气会道歉，吃退烧药出了很多汗，我们帮他更换床单，他会谢谢我们。”依靠翻译软件，金鹏国知道了自己的病情距离死亡有多远。“我在屏幕上写了一个：不要担忧，一起战胜困难。”卓斯说。后来，医院安排了韩语翻译，“还请了一个做韩餐的师傅，每顿都吃韩餐，韩国泡饭、泡菜这些。他吃不惯中餐怎么办？不好好吃饭没有抵抗力，也影响治疗。”

## 被恐惧包围的接触者

在金鹏国的隔壁，隔离着一位密切接触者。苏灿认识这个人，“他是酒店的，和我先生也是工作认识的。他被隔离后，我们还通过电话，他有时候要给那个韩国人当翻译。他也很无奈。”

“有媒体说我老公是他的翻译，不是这样的，他们就是同事！”哪怕是最小的细节，苏灿也抓住不放，希望能够再准确一些。她受够了。“很生气，懊恼！现在我无法过正常人的生活。”苏灿和丈夫李先生是朝鲜族。李先生回到深圳后，在家住了一晚。5月28日一早，原计划两人一起搬家至另一个小区。次日白天，李先生被带走隔离。

“当时我丈夫没有任何不适，直到现在也没有发病的迹象，几次检测都为阴性。”苏灿说，她自己没有被要求隔离，而是“医学观察”，每天向社区健康中心汇报两次体温。“我特意问过自己的危险性，卫生部门的工作人员告诉我，即使我老公被传染上了，我是在他还没有发病时跟他接触的，没有关系的。”

对苏灿来说，最恐惧的不是 MERS，而是周围人对她的恐惧。就算是在病毒潜伏期即将平稳度过的时候，人们对她的恐惧也远胜于病毒。从 5 月 28 日起，她只出过两次门。官方通报中，详细发布了深圳密切接触者的行踪，包括他们搬家的小区和时间，“周围的人马上知道是我。”“我去了一趟公司。同事看见我，嘴上说你怎么来了？眼神里都是‘你不应该来。’”“我出门去买菜，小区里的人看见我都躲得远远的。看我的眼神就好像我是罪犯，以为我是从隔离区逃跑出来的。”“我真的没有被隔离！”苏灿说。最新的官方通报称，MERS 的隔离时间是 14 天，部分人的隔离最后期限是本月 8 日，最晚的是 11 日。

广东省疾控中心传染病预防控制所所长何剑峰告诉媒体，风险确实已降到最低，但没有绝对，“和患者打了个照面的人，严格来说不是密切接触，但万一中招了呢？”苏灿难以忍受周围人恐惧的眼神。“我准备请律师，起诉我老公的同事和公司，要求赔偿经济损失和精神损失。”

(新闻极客 刘洋 报道)

20150608D 新浪特報-MERS 入国者金鵬国(新浪中心)